



誰もが住みやすく、地域に愛着と誇りを持てるまち・港区

# 港区

面積 .....20.37km<sup>2</sup>  
 世帯数 .....147,409世帯  
 人口 .....258,783人  
 (うち外国人).....17,224人  
 予算 .....1,593億円  
 職員数 .....2,260人

## 歴史・見所・名所

港区の地域は、歴史的には、幕末外交・明治維新の拠点として、あるいは、文明開化における鉄道・ガス・新聞の発祥地として、さまざまな分野にわたる転換の舞台となってきました。

現在の港区の姿は、昭和22(1947)年3月15日、旧芝区、旧麻布区、旧赤坂区の3区の合併にその誕生を遡ります。なお、「港区」という名称は、3区合併を機に、各区の関係者から提案されたもののうち、「今後の我が国の発展は貿易の振興にあるが、その素材ともいえる東京港を包含している」として「東港区」が候補となり、そこから「東」の1字を除いて、「港区」となったことに由来します。

現在、港区は、陸・海・空の数多くの交通の結節点として位置するとともに、多様な地域資源の集積を背景とした情報発信地として、我が国の社会経済における主要な地域となっています。

## 概要

### ア 地理

港区は、東京都のほぼ南東部に位置し、東は東京湾に面し、その北端でわずかに中央区に接し、北は千代田区と新宿区、西は渋谷区、南は品川区、東は江東区にそれぞれ隣接しています。

### イ 地形

港区の地形は、北西一帯の高台地と南東の東京湾に面した低地及び芝浦海浜の埋立地からなっています。

高台地は秩父山麓に端を発している武蔵野台地の末端で、これらの台地は小さな突起状の丘陵となっているため、東京23区の中で最も起伏に富んだ地形を形成しています。

区の中央部には、西から東に流れる古川(金杉川)流域に平地部が横たわっています。

### ウ 人口推移

港区の人口は、昭和36(1961)年の25万6,038人から減少傾向が長期的に続き、平成7(1995)年には15万人を割り込みました。平成8(1996)年を境に増加傾向に転じ、平成21(2009)年には四半世紀ぶりに20万人台を回復し、平成29(2017)年には25万人台に達しました。令和2(2020)年6月以降、感染症の感染拡大に起因すると思われる減少傾向が見られましたが、令和4(2022)年2月以降、再び増加に転じており、今後も景気の回復などに伴い、中期的に増加傾向が続くと見込んでいます。

### エ 特徴のある取組み

「参画と協働」を区政運営の柱に据え、区内の5つの地区に総合支所を設置し、地域の課題を地域で解決する取組みを進めています。

区民が来庁することなく、質の高い行政サービスを受けられる区役所の実現を目指し、オンラインによる申請や相談、キャッシュレス



芝地区  
東京タワーと芝公園



麻布地区  
六本木けやき坂通り



赤坂地区  
檜町公園

化、公衆無線LAN利用可能エリアの拡大などに取り組んでいます。

また、令和3(2021)年4月に港区児童相談所を併設する港区子ども家庭総合支援センターを開設しました。子育て家庭に寄り添った支援策に取り組むことで、「子育てするなら港区」の実現を推進しています。

### オ 「全国連携の港区」の実現に向けて

港区では、互いの地域の発展と住民のより豊かな生活の実現に向け、平成28(2016)年4月に、全国連携を推進する専管組織を設置しました。

また、令和3(2021)年4月には、平成28(2016)年に策定した「港区まち・ひと・しごと創生総合戦略」を港区基本計画に統合し、「全国各地域とともに成長・発展することによる共存・共栄の推進」を掲げ、区政の幅広い分野で全国との連携に取り組んでいます。

## 主要課題

### ① 「新たな時代」に対応した区政運営への転換

来庁せずに手続きができる区役所の実現を目指し、AIや5Gなど先端技術を活用するなど、デジタル・トランスフォーメーションを強力に推進し、新たな時代の区民生活に対応した区政運営への転換を図ります。

### ② あらゆる危機から区民の命を守る「強靱な都市」の実現

地震、台風などの自然災害や新たな感染症など様々な脅威を想定して、あらゆる危機から区民の生命と財産を守り、安全・安心で強靱な都市を形成します。

### ③ まちの発展と環境負荷の低減を両立する「持続可能な都市」の構築

経済活動や新たなまちづくりなどのまちの発展を支える取組みと、環境負荷を低減させ都心の水辺や緑を守り育てる取組みを両立することで、SDGsの達成にも貢献する「持続可能な都市」を構築します。

### ④ 多様な人が共に支え合いながら暮らす「地域共生社会」の実現

子どもや高齢者、障害者、外国人、性的マイノリティの方などあらゆる人が、共に支え合いながら、自分らしく生きがいを持って心豊かに暮らせる地域共生社会を実現します。

### ⑤ 「人口増加」に伴い拡大する行政需要への的確な対応

各世代で予想される人口増加に伴い、拡大する行政需要に的確に対応することで、安心して子どもを生み、育てることができ、高齢者や障害者など誰もが安心して住み続けられる環境を整備します。

### ⑥ 地域の力を結集して課題を解決する「参画と協働」の推進

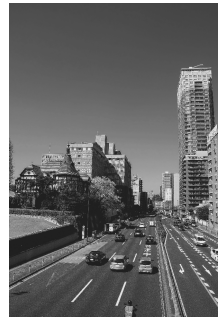
区民、民間、全国各地域の力を結集して、多様な主体とのネットワークを生かし、行政だけでは困難な課題の解決を図る、都心にふさわしい「参画と協働」の取組みを進めます。

### ⑦ 東京2020大会の「レガシーの継承」

スポーツ、文化、環境など様々な分野において東京2020大会のレガシーを引き継ぎ、国際化やバリアフリー化など将来を見据えたまちづくりを推進し、積極的に区の魅力を発信します。

## 将来展望

令和3(2021)年1月、令和3年度からの6か年を計画期間とする「港区基本計画」を策定しました。かつてない先行きが不透明な状況だからこそ、港区は、これまで以上に区民一人ひとりが大切にされ、多様性を認め合う社会を目指すとともに、安全で安心して暮らすことができるまちづくりを進め、港区基本計画で区民とともに描いた未来、「誰もが住みやすく、地域に愛着と誇りを持つまち・港区」を実現していきます。



高輪地区  
桜田通り(国道1号)



芝浦港南地区  
レインボーブリッジ